

静岡大学食品・生物産業創出拠点 第49回研究会

主催: 静岡大学食品・生物産業創出拠点
後援: 静岡化学工学懇話会
公益財団法人 静岡県産業振興財団
静岡大学イノベーション社会連携推進機構

食品・生物産業の生産システム改革と地方創生 —食品の生産・品質・鮮度に挑む技術開発—

2018 **12/10** (月) アクトシティ浜松 コンgressセンター

13:30-16:45

4階 43-44 会議室

(浜松市中区板屋町 111-1 tel: 053-451-1111)

プログラム(予定)

13:30 はじめに(代表幹事)

13:35-14:25

「ウルトラファインバブルの産業への活用」

株式会社ナノクス 代表取締役専務 米澤 裕二 氏

14:25-14:50

「清酒用河津桜酵母の開発としずおか有用微生物ライブラリの構築」

静岡県工業技術研究所 沼津工業技術支援センター バイオ科 主任研究員 勝山 聡 氏

14:50-15:15

「食用カビによる発酵熟成魚肉の開発」

静岡県水産技術研究所 主任研究員 山崎 資之 氏

15:15-15:35(休憩)

15:35-16:25

「生産性向上のためのIoT・AI活用のポイント」

静岡大学情報学部 情報科学科 教授 峰野 博史 氏

16:25-16:45

総合討論

「新技術をいかに食品産業に結びつけるか」

16:45 おわりに

懇親会: 17:00-19:00 オークラクトシティホテル浜松(講演会会場 続き棟のホテル)

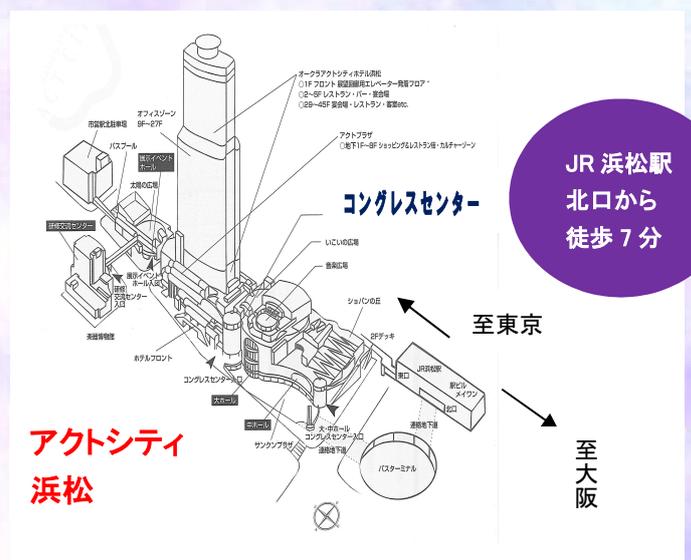
30F スカイバンケット

参加費 (当日、受付にて)

講演: 会員・後援団体及び学生: 無料
非会員: 1,000 円
懇親会: 会員 3,000 円 非会員: 5,000 円

参加申込み・問合せ先 申込期日: 11/28 (水)

静岡大学食品・生物産業創出拠点事務局
〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836
TEL 054-238-4361, FAX 054-238-3018
E-mail hiraoka.sachiko@shizuoka.ac.jp



講演概要

「ウルトラファインバブルの産業への活用」

株式会社ナノクス 代表取締役専務 米澤 裕二 氏

当社がこれまで実施した実験結果等に基づき、ウルトラファインバブル(UFB)の特性や機能についての解説と、当社装置の開発経緯・製品紹介及び、実際に導入されている分野で、UFB がどのように使用され、どのような効果を発現しているか、実績に基づき紹介いたします。

「清酒用河津桜酵母の開発としずおか有用微生物ライブラリの構築」

静岡県工業技術研究所 沼津工業技術支援センター
バイオ科 主任研究員 勝山 聡 氏

静岡県工業技術研究所沼津工業技術支援センターでは、醸造用酵母の開発に取り組んでおり、主に県酒造組合との共同研究により清酒用酵母(静岡酵母)の開発を行ってきた。平成24~26年度に実施した研究では、これまでの一般的な清酒用酵母とは異なる「低アルコール度数かつ甘味と酸味が調和した」タイプの清酒用酵母を河津桜の花から分離した(清酒用河津桜酵母)。また、平成27~29年度に実施した県の新成長戦略研究においては、これまでの研究成果を活用・発展させ、県内の自然界や各種醸造場から分離した微生物などを登録・管理した「しずおか微生物ライブラリ」の構築を進め、各種発酵食品の開発を行ったので紹介する。

「食用カビによる発酵熟成魚肉の開発」

静岡県水産技術研究所 主任研究員 山崎 資之 氏

魚肉の発酵食品というと魚醤油、ふなずし、鰹本枯節などが有名であるが、農産物や畜産物と比べるとその種類は少ない。その理由として魚肉は、腐敗しやすいうえに乾燥しやすく発酵熟成をすることが難しいことがあげられる。一方、畜肉では低脂肪赤身肉を乾燥熟成という手法により、高付加価値化している例がある。これは熟成庫内で赤身肉を乾燥させながら、カビ等の微生物が産生する酵素の働きで風味等を向上させる技術である。本研究所では、畜肉で活用されている乾燥熟成の手法を乾燥しやすい魚肉に応用し、食用カビによる発酵熟成魚肉の製造技術を開発した。その後、県内の水産加工業者と共同研究を実施し、ニジマス为原料とした発酵熟成魚肉「ふじ紅雪」を商品化した。今回は、商品の開発に至る経緯や課題、販売までのアプローチ等について紹介する。

「生産性向上のためのIoT・AI活用のポイント」

静岡大学情報学部 情報科学科 教授 峰野 博史 氏

社会構造の変化や人材不足に伴い、IoT (Internet of Things) やAI (Artificial Intelligence) を活用した様々な分野における生産性向上への取り組みが注目されている。本講演では、IoT やAI を活用した知的システムの研究開発サイクルにおいて、エンジニアがどのような点に注意しながらIoT やAI を活用していくべきか概説する。また、農業といった一次産業分野を例に、長年の経験と勘に基づいて習得したノウハウの効率的な伝承や、AI との協働による生産性向上への取り組み状況について紹介する。